

第2A(小)分科会 子どもの発達に関する課題

提案主題 支援を要する子どもへの組織的な対応と教頭の役割について
サブテーマ ～いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応に向けた組織的な取り組みの工夫について～
協議の柱 不登校等支援を要する子どもへの組織的な対応と、そこでの教頭の役割はどうあればよいか。

提言者 中津市立鶴居小学校 堤 政 範

1 質 疑

- (1) Q 毎週金曜日に行われる寺子屋教師塾は、誰がどのように企画しているのか。
A 昨年より始めた。基本的に若手中心で集まった人のフリートーク。今年度は自由な受講で保護者対応や悩みを出し合っている。また、学び合いの研究をしてきた人に講師を依頼して勉強会をしている。
- (2) Q SC、SSWの関わりはあるのか。
A 毎週定期的に来ている人はいない。SCが大幡小学校に週に1回来ているので、連絡を取って来校してもらっている。児童相談所や子育て支援課とも繋がりを持ちサポートしてもらっている。

2 協 議

- (1) 不登校の子どもがいる学校は、組織的に対応するよう、まずは「居場所」（保健室以外）を作っている。また、管理職、フリー、教育支援員等「人」の確保をして対応に当たっている。また、SCやSSWを活用したケース会議を持ち、情報共有をしている。それを管理職が吸い上げて、不登校対策委員会委を持つようにした。保護者と教頭が繋がることにより、学校との関係が良くなった。
- (2) 不登校「0」を継続するため、研修でマニュアルを扱い教職員と確認をしている。家庭の事情や保護者の考えや価値観（行きたくなければ行かなくてよい）で不登校になるケースもある。学校だけでは解決ができない。SSWと繋がりを持ち家庭に踏み込んで対応していく必要がある。また、欠席があればすぐに家庭訪問等で対応する。問題行動があればスピード感を持って対応するという校長の姿勢が大切である。
- (3) 危機感を教職員が共有することが解決に繋がる。「弱い立場の子ども」＝「不登校」のイメージを持つ。ケース会議では、SC、SSW、保護者と連携を密にして会議をスムーズに持つことが必要である。また、わかる授業作りにつとめ参観で子どもの変化を見極めること、地域の人の声をしっかりと聞くことも必要である。

3 指導助言

- (1) 不登校には、予想できるものとできないものがある。不登校を学校に戻すにはエネルギーがいる。そのため、わかる授業を通して不登校の可能性のある子どもには声かけを手厚く、学習状態の把握をしっかりとするよう努めることが大切である。
- (2) 担任の個人判断で不登校にはならないと判断してしまうことがある。最初の家庭訪問の時、何を目的としているか確認をすることが必要である。また、ノウハウを持っている教師にどん状況かを把握してもらうことも大切なことある。
- (3) 不登校の理由として「わからない」がほとんどである。1人の人に負担が行かないよう役割分担をして欠席傾向を分析すること。
- (4) 小さな規模の小学校では、不登校を経験していない人が多い。職員室の担任として、教師がどのように不登校に対する意識が変わっていったのか見取る必要がある。